



中西 勝也

代表取締役 社長

進藤 晶子氏

インタビュー

謙虚に、明るく、貪欲に取り組むということ。 これが私のスタイルです

— 本日は統合報告書2023の読者に向けて、中経2024に込めた想いや、社長のリーダーシップスタイルや経営哲学などについて、中西社長に色々とお伺いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

Q はじめにですが、中経2024には、「規律ある成長で未来へつなぐ」、「多様なインテリジェンスをつなぐ」、「多彩・多才なヒトをつなぎ」などさまざまな「つながり」についての記載が多くありますが、中西社長が特に重視している「つながり」は何でしょうか？

自分自身の経験も踏まえてですが、やはり人ですね。人とどうつながっているのか。今取り組んでいる仕事の中には、もう何十年もお付き合いしている人との信頼関係を通して出てきたものもあります。ですので、そういったことは大事にしたいと思っています。

一例として、当社は地域創生を掲げて複数の自治体との

連携を強化していますが、地域創生においてはその地域の方々とのつながりが非常に重要となります。電力事業などは30年もの期間にわたり事業を行いますので、地域の方々とは非常に長い期間のお付き合いとなります。昨今連携を強化している地域の方々には三菱商事に大いに期待していますが、新しい事業を創出して地域にも貢献していくことで、地域の期待に応えていきたいと考えています。

また、次の世代にどのようにバトンを渡すのかという点も常に考えています。例えば今年入社した新入社員が経営を担う2050年頃に三菱商事がどのような会社になっているのかについての責任は、私にあると思っています。

Q やはり人とのつながりがビジネスの根幹を成すんですね。世界中で多様な事業を営む三菱商事を経営するに当たって社長として重視されている点や、特に意識している役割などはありますか？

先程のお話にもつながりますが、重視しているのは社員や社外のパートナーとの対話ですね。その際に大事にしている



ことは、時間を惜しまないで厭わずによく話を聞くということです。一方的に話すのではなくて、話を聞くことによって悩みを知る。その中で最適な解決策を探っていく。社内での具体的な機会としては、社員とのタウンホールミーティングを定期的で開催したり、中堅若手社員と毎月会食したり、新入社員との対話なども行いました。

— お忙しいスケジュールの中でかなりの時間を費やされているんですね。ただ、社員の方から本音を引き出すのは難易度が高そうですね。

確かに本音を引き出すのは難しい場合もあります。社員達と食事しても最初はなかなか本音を見せてくれません。それでも、そういうことを厭わずに粘り強くやり続けます。難しいですが、やらなかったらさらに分からないので。ただ、そうした中でも、特に若手の社員は忸度なく本音で質問してきますね。新入社員と私の対話においては、新入社員からさまざまな質問が寄せられて私が答えていたのですが、聞いていた社外の方から「三菱商事は本当にフリーですね。普通そんなこと社長に聞かないですよ」と言われました(笑)。

あと重要なこととして、三菱商事が多様な事業を営む会社である以上は、当然ですが、私自身が多様な知識を持っていないといけないと思っています。本も結構読んでいますが、やはり生きた情報が重要なので人と話すことから多くのことを学んでいます。各業界のトップの方々との交流を通じて教えて頂くことも数多くあります。もちろん社内には各分野のエキスパートが揃っていますので、社員と話すことや現場の視察も重視しています。社長の役割という一番上に立っていると言う人もいますが、私はむしろ、三菱商事グループ全体を自分が一番底から支えているという意識で務

めています。全体を支えているわけですから幅広く知っている必要がありますし、やはり私が勉強しなければいけないことだと思っています。

Q 中西社長が会社を経営するにあたってのご自身のリーダーシップスタイルや経営哲学についてはどのようにお考えでしょうか？

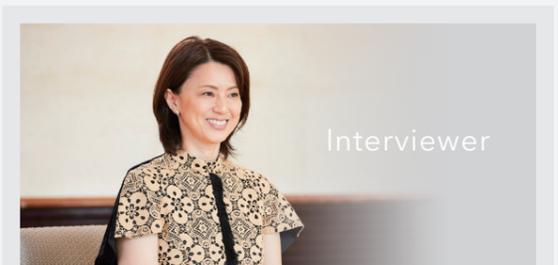
経営哲学という大それたことかどうか分かりませんが、正面から物事をきちんと捉えることが重要だと考えています。自分事としてきちんと捉えて、コミュニケーションやインテリジェンスを駆使しながら次の一步を探り、リーダーシップを発揮して実行していきます。その際に意識していることは、謙虚に、明るく、貪欲に取り組むということ。これが私のスタイルですね。

— 今日のインタビューを通じて、イキイキと社長をなさっているように感じられます。

やりがいは非常に感じています。脱炭素をはじめとして時代の変わり目であるので、そういう意味では面白いタイミングだとも思いますし、私だけではなく、会社自身が成長するチャンスが大いにいると確信しています。

— 本日は色々なお話を有難うございました。

こちらこそ有難うございました。



進藤 晶子(しんどう・まさこ)氏

1994年TBS入社。「筑紫哲也News23」「ニュースの森」などを担当する。2001年3月TBS退社。その後、司会、執筆、朗読の他、各界のトップランナー数百人に取材するなどインタビューアールとしても活躍。2018年サントリーホール、2021年にはトッパンホールで朗読コンサートをプロデュースした。現在、毎週日曜朝7時半〜「がっちりマンデー!!!」(TBS)司会を務める。